

小金井雑学大学

第29号 令和4年1月

だより

長坂学長を偲んで

小金井雑学大学 代表理事 五十嵐 京子

新年を健やかに迎えることとお慶び申し上げます。

令和2年2月から拡大が始まった新型コロナウイルス感染症は、日本では第5波のあと一旦収束の傾向を見せたものの、新年が明けてまもなく感染者が急拡大、現在第6波に入ったようです。100年に一度の感染症のパンデミックの中で、ウイルスが変異を続け何度となく拡大減少を繰り返すものであることを、科学が進歩する現在私たちは実感を持って体験しています。

令和2年度の講義は全て休講にした当大学では、令和3年4月から再開をし、昨年中は15回の講義を実施しました。コロナ禍であり、会場の確保が以前のようにはいかず、また多くの受講生の参加も控えつつ、PRも限定的な活動に終始しております。

このように活動が困難な中で、昨年10月私たち理事を引っ張ってきてくださった長坂寛学長がこの世を去りました。しばらく入院をされてのご逝去で、コロナ禍でお見舞いもご葬儀でのお別れも叶いませんでしたが、長坂学長の何事にも前向きに、物事に明るく取り組む姿勢は理事の見本でした。その長坂学長から生前最後の著書と言って1冊の本をいただきました。令和元年夏に発行されたその著書は経営に関する論文を表したものですが、最初の著者の言葉のところで、マナトマ・ガンジーの「明日死ぬと思って生きなさい。永遠に生きると思って学びなさい。」という言葉が記されています。きっと長坂学長も心に留めておられた言葉だと思いますので、長坂学長の思いとして、雑学大学に学ぶ皆様にもお伝えをさせていただきたいと思っております。

第6波に入った、とはいえ、昨年からのワクチン接種の開始、これからの3度目の接種の実施や、こうした背景もあってか重症化しにくいという傾向にある状況を見極めながら、コロナ禍3年目の活動を進めてまいります。

今年も皆様のご協力やご支援をどうぞよろしくお願い申し上げます。



最近のお寺事情

武蔵野大学副学長
同付属幼稚園園長 石上 和敬

小生、大学では仏教を講じておりますが、実家である浄土真宗の一寺院を預る立場でもあります。今回は、小金井雑学大学様が掲げられている生涯学習推進に関係のありそうな、最近のお寺事情の一斑をご紹介します。



皆さまには、たいてい、お坊さんやお寺関係の知り合いが一人や二人はおられることと思います。皆さまの知識として、お寺の住職はお寺に生まれた子どもであったり、お寺の娘さんと結婚した配偶者であったりすることがほとんどかと思えます。私自身も寺の長男として生まれ、お寺のあとを継ぎました。つまり、ほとんどのお寺は世襲されている、という理解が一般的かと思えます。

しかし、最近、もともとのお寺とは関係のない一般の方がお坊さんになる例が増えていきます。その動機は様々ようです。会社人生に一区切りをつけ第二の人生をお坊さんとして仏教に向き合ってみたい、お坊さんとして世のため人のためにはたらいてみたい、田舎の小さなお寺で自己と向き合いながら静かな隠遁生活をおくりたい、等々です。臨済宗では「第二の人生プロジェクト」と称して社会人卒業の方々の出家を推奨、公募までされています。私のお寺でもすでに 20 人近い方々がお坊さんになられました。

これまでのお寺業界は世襲のお坊さんがほとんどでしたから、お寺出身でないお坊さんたちがお寺業界に入ること、双方に戸惑いやギクシャクもないことはありません。それでも、全体としては、お互いに刺激を受けながら、良い方向に進んでいくものと思います。そして、何より、お坊さん志願者が多いということは、お坊さんがある意味で魅力的な存在、生き方に映っているのかもしれない、などと複雑な思いで昨今の状況を眺めています。

なぜ、一定以上の年齢の方々に坊さんが魅力的に映るのだろうか、と考えたとき、定年もなく、高齢でも活躍ができる、ということも理由の一つかもしれません。先日も、比叡山トップの高僧が 96 歳で亡くなられ、あとを継いだのは 97 歳の方でした。死ぬまで学び続けることができる、これが仏教の世界の尊い伝統なのかもしれません。

以上、お寺業界の最近の状況について、簡単なお報告でした。

コロナ禍での活動

まだまだコロナ感染症は収束まで時間がかかりそうです。熱を測ることや、手指の消毒、マスクの着用にご協力ください。また、周年記念行事は実施いたしません。会場が使えるうちは講義を実施したいと思いますが、突然の連絡などが必要になるかもしれません。HP を見ていただくなどご協力をお願いいたします。

その後を見据えた高齢者の住宅管理

東京・土地建物登記測量サポートセンター

行政書士・土地家屋調査士 持丸康和

持ち家にお住いの高齢者の方々は、市内に多くおられます。このような方々には、住居管理の観点から今後起こり得る、健康問題、認知機能低下、相続など将来に対して、事前の対策を講じておられる方が少なく、問題が発生した後に当センターに相談に来られるケースが非常に多い実情があります。



我が国の高齢化の進展は急速であり、空き家もこれに比例して増加しています。空き家は、老朽化、庭木・雑草の繁茂、郵便物の蓄積、連絡先不明など地域社会・環境に大きな影響を与えることから、小金井市をはじめ各自治体とも必要な施策を講じてきているところです。

なぜ空き家が増加してきているか、主たる要因は、施設等へ転居後認知機能の低下が原因で住居売却ができなくなる、相続人の遺産分割協議が進まないなどありますが、これらは健康なうちに必要な対策を講ずることで未然に防止できるケースが多いと考えています。例えば、子など親族との間で、家族信託契約や任意後見契約を締結する、遺産の分割方法を遺言として残しておくなどです。

以上は、高額資産である不動産の管理方法や判断を誤ると損害を被りかねない一例を示しました。これ以外にも、例えば、土地面積を均等に遺産分割配分したところ、接道長さの違いから評価額が異なることとなった、土地の境界線が明確でないため不動産価値が下がった、土地を購入したが道路接道の問題から建物が建てられない、共有私道で勝手にガス引込管等の補修工事ができないなど……

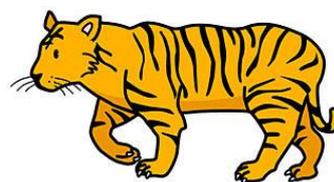
このように不動産に関する問題は多種多様で、かつ、専門的知見がないと対処できないことも多いと思いますので、このような問題をお持ちの方々に対し専門士業の一人として今後とも、適時適切に支援していければと考えているところです。

理事・講師募集

小金井雑学大学は、講師も基本的にはボランティアでお願いしており、市民同士の学びあいを基本に考えて運営しています。こうした生涯学習の市民活動にご関心のある方を募集しております。一緒に学びの場作りをしませんか。

「小金井雑学大学だより」のバックナンバー（カラー）は小金井雑学大学のWEBサイトでお読みいただけます。

小金井雑学大学 



人生 100 年時代のお金の話

ファイナンシャルプランナー 広瀬 まき

令和 3 年 11 月、「人生 100 年時代のお金の話」というタイトルで、講義をさせていただきました。貴重な機会をいただき、本当にありがとうございました。多くの方にご参加いただき、テーマへの関心の高さを改めて実感いたしました。



講義では、主に、長期分散投資による資産形成の重要性について、お話をさせていただきました。日本では、世界に先駆けて少子高齢化が進むと同時に、超低金利時代が長く続いており、銀行預金以外での運用の重要性が増しています。NISA や iDeCo など、長期分散投資を後押しする国の制度についても、十分に理解いただき、ぜひ活用していただきたいです。

日本人は、他の先進国と比べて金融リテラシー（お金の知識や判断力）が低いという調査結果があります。特にご年配の方の中には、お金やお金儲けに悪いイメージを持つ人が少なくなく、たとえ身近な関係であっても、お金の話をタブー視する傾向があります。国策として「貯蓄から投資へ」が提唱されるようになり久しいですが、十分に進んでいるとは言いがたいのが現状です。日本人が貯蓄を好む背景には、もちろん堅実な国民性もありますが、お金について学ぶ機会が十分に提供されていなかったことも一因ではないでしょうか。

お金について学び考えることは、人生を豊かに生きるために極めて重要です。人生の大きな節目である就職、結婚、出産・子育て、退職・老後などにおいて、ライフプラン（将来設計）の重要な選択を行う上で、マネープラン（資金計画）を切り離すことはできません。加えて、お金について十分な知識をつけることは、詐欺などから身を守ることに繋がります。

今後もこのような様々な機会を活用して、お金について理解を深めていただけると幸いです。私も、最新の情報を分かりやすく発信していけるよう、引き続き努力して参ります。

編集後記

雑学だより第 29 号をお送りします。前年度は講師の先生に、休講、休講で大変ご迷惑をおかけしました。今年はよい年となりますように。

事務局 田中 留美子

発行責任者 五十嵐京子